

標準委員会 第6回リスク専門部会議事録

1. 日 時 2009年10月7日（水） 14：30～17:15

2. 場 所 （独）原子力安全基盤機構 別館11階A,B会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 平野（光）（部会長），山口（副部会長），成宮（幹事），野中，本間，吉田（一），倉本，松岡，松本，橋本，町田，宮田（浩），梶本，山下，佐々木，吉田（智）
（16名）

（代理出席委員） 金子 真幸（保安院／小野委員代理），河井 忠比古（リスクガイドライン分科会／平野(雅)委員代理），北村 豊（三菱総研(株)／瀬谷崎委員代理），大嶽 通明（三菱重工業／梅澤委員代理），織田 伸吾（日立製作所／守屋委員代理），泉 祐志（中部電力／竹山委員代理），山中 康慎（日本原燃／関根委員代理），門谷 光人（日本原電／福山委員代理）（8名）

（欠席委員） 岡本，桐本，越塚，熊本，村松，宮田（知）（6名）

（常時参加者） （0名）

（傍聴者） 中村，楠木（関電），菅原（原技協）（3名）

（事務局） 岡村

4. 配付資料

配付資料

- RKTC6-1 第5回リスク専門部会 議事録（案）
- RKTC6-2 人事について
- RKTC6-3 リスク専門部会所掌の標準に関する今後のスケジュール
- RKTC6-4-1 リスク情報活用ガイドライン分科会の活動状況について
- RKTC6-4-2 原子力発電所の安全確保活動へのリスク情報活用に関する実施基準（案）
- RKTC6-4-3 原子力発電所の安全確保活動へのリスク情報活用に関する実施基準（案）に係る前回部会版との新旧比較
- RKTC6-5 2010年春の年会（3/26-28）企画セッション提案書（案）
- RKTC6-6 ISO規格の改定要否検討結果について
- RKTC6-7 リスク専門部会の活動について

参考資料

- RKTC6-参考1 リスク専門部会委員名簿
- RKTC6-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、開始時点で委員30名中代理委員を含めて22名が出席しており、決議に必要な定足数（20名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（RKTC6-1）

事務局より、事前配布した前回議事録（案）についてのコメントは無かった旨説明し、議事録（案）は承認された。

(2) 人事について（RKTC6-2）

①専門部会

・委員の退任【報告事項】

梅澤 成光（三菱重工業）

2009年10月7日退任

・委員の選任【承認事項】

大嶽 通明（三菱重工業）

審議の結果、大嶽氏を新委員として選任した。

(3) リスク専門部会の標準策定スケジュール（RKTC6-3）

成宮幹事より、リスク専門部会の標準策定スケジュールの改訂（案）が説明された。続けて、既に発行された標準について、どのような講習会を行うべきかについて、委員にアンケートをお願いしたいと提案され、実施することとなった。

(4) 原子力発電所の安全確保活動へのリスク情報活用に関する実施基準（案）の本報告（RKTC6-4-1～3）

成宮幹事より、原子力発電所の安全確保活動へのリスク情報活用に関する実施基準（案）について説明が行われた。審議の結果、本日のコメントを踏まえて一部修正の上書面投票に移行することが決議された。

主な質疑等

- ・適用範囲が運転・保守に限定していることが、まえがきには書かれていない。一般的な安全確保活動といったときには、読者は設備変更なども含めていると読むと思うので、まえがきにもひとこと書いてはどうか。
 - 運転・保守の中には一部の設備の取替、改造を含んでいる。全体がそうなのでタイトルを運転保守にすることも検討はした。
 - 将来的には、運転・保守以外にも拡張していくのだと思う。解説を読むと、運転・検査などがより重要になっていることが書いてある。そのような重要度でこれを先行して策定していることが読めるようにすれば良い。
- ・逆に運転・保守管理の中に設備の維持、変更も含まれると読むこともできるのか。
 - 解説2の4行目に、保全計画に基づく・・・としており、プラント建設の設計変更等は除外されている
 - 附属書K、あるいはTecdocにあるような幅広い設備変更ではないということ。読んでいる人は、附属書Kを読むと幅広く含まれているように見えて、これはどこで読めるのかとなる。実施計画を見ると、ソフト的な制限の実施のように読めるので、そういう部分に関しては実施計画で見ると分かれば良い。
 - まえがきにもし書くとすればどこにどう書くか。
 - 現在、原子力発電所の・・・の段落の最後に当面は・・・と書くことが考え

られる。

- 解説の位置付けにもよるが、重要な考え方を書くのが解説だと思えば今のままでも良いかもしれない。
- 最初に拡張性を言って、まず限定してやるといった方が分かりやすいように思う。
- 本文から解説は引用できなかったか。
- 解説は無くても理解できるようにしなければならない。解説4については、当初多くの説明を解説に書いていたが、骨子の部分は本文に移動した。そういう意味で、解説2についても適用範囲に書いた面がある。
- 表現については、分科会で検討していただくとして、大きな問題が無ければ、書面投票に移るので、その際に良い表現があれば意見として出して欲しい。
- 5.4.1で、ALARAの効果が期待できる場合との表現があり、附属書Iにもあるが、どういう意味か分からない。ALARAの効果が、放射線被ばくに係るリスクの低減と読めるが、説明としても足りない。さらに、附属書Iではそういうものが一律に考慮される必要は無いと説明されているが、具体的に安全確保活動の変更をされた場合に、どういうことを言っているのか。
 - 基本ガイドラインとの整合で記載しているもの。附属書Iは、安全確保活動の変更をする際に、補償措置の検討の中でALARAの効果が期待できない場合には考慮しなくても良いという意味。
 - 分科会の議論では、保安院のガイドラインでは、従来からの規制要件のひとつであり、炉心損傷頻度等のリスクは指さないだろうとの整理になり、ALARAについては被ばく低減に限定している。
 - CDFの変化が大きいような場合に、最終的には被ばくにつながるので、ALARAで何らかの対策をしておく、そのような意味で良いのか。
 - その場合は、補償措置で行うことになる。両方が同じ意味合いとなる。
 - 「効果が期待できる」との表現が分かりにくい。補償措置の検討を、ALARAの精神で実施すると言ったことになるのではないか。あるいは補償措置の検討自体がALARAの精神ということではないか。
 - 基本的には、ALARAの精神を踏まえて実施計画を定めていくという趣旨。本文は、ALARAの効果の部分を見直し、附属書Iも少し見直す必要がある。
 - 少なくとも本文は何を含めるのか書く必要がある。
 - 附属書Iは、結果としてALARAと補償措置の対策が同じになるということだけで良いのではないか。
 - ここでのALARAは、放射線被ばくに限るのではなく、もっと広い意味の最適化とした方が良いのではないか。
- 附属書DにIAEAの基本安全原則があるが、引用であるなら参考文献を明記すること。

(5) 2010年春の年会での企画セッション提案について (RKTC6-5)

成宮幹事より、資料RKTC6-5に沿って、2010年春の年会においてリスク専門部会として企画セッションを開催すること並びにその内容が提案された。審議の結果、セッションの内

容についてはコメントを踏まえて見直すこととし、企画セッションを開催することについては承認された。また、各委員はコメントがあれば15日までに成宮幹事に送付することとなった。

主な質疑等

- ・ リスク情報活用については、他の学協会とも整備すべき民間規格の議論が必要と考えている。
- ・ リスク情報活用は、P S Aに限らず、シビアアクシデント対策やメンテナンスルールなども対象となる。全体としての絵姿を示すことが必要ではないか。
 - P S A関連標準と書いていないのは、そのような意味合いだが、必要かもしれない。
 - リスク情報活用は広い概念であることを説明して欲しい。
 - そういう意味では、米国等には、標準といったものは少ない。連邦規則などから説明しないと分からない。
 - タイトルも直して欲しい。
- ・ 今後の展望が重要。
- ・ リスク情報という言葉は、保安院のガイドラインで定義されている。P S Aに特化した狭い定義なので、ここでは情報を取って、リスク活用としてはどうか。
- ・ 将来の展望を専門部会として説明できるか。
 - 策定する標準に関して説明する。
- ・ ③の諸外国については、我が国も、③で紹介するような標準などを策定すべきではないかということで入れた。標準委員会のリスク専門部会としては所掌外かもしれない。
 - 最後に諸外国の状況ではなく、展望を最後にした方が良いかもしれない。
 - 整備の状況としては、①で我が国と対比させることもできるのではないか。
 - 諸外国でひとつの講演にするよりも、標準とそれを取り巻く状況といった切り口にした方が良いかもしれない。
- ・ サイクル関係はどのような扱いか。
 - 今は考えていない。
 - 諸外国のところでは紹介できるのではないか。
 - 今後はサイクル関係も検討が進む見通し。どこかで紹介して欲しい。
- ・ 標準委員会の立場からすると、標準の活用はちょっと立場が違うのではないか。
 - 一般の人からすれば、何のために作っているのかの説明が必要。
- ・ 展望に関しては、国側は、J N E Sのスケジュールがある。民間も何かあればできる範囲で説明すれば良い。

(6) ISO規格の改定要否検討結果について (RKT6-6)

P S Aパラメータ分科会委員である吉田委員より、資料RKT6-6を用いて、①ISO 6527:1982(ver4) "Nuclear power plants - Reliability data exchange - General guidelines" (信頼性データの交換に係る一般指針)、②ISO 7385:1983(ver4) Nuclear power plants - Guidelines to ensure quality of collected data on reliability (信頼性データの品質確保指針)、③ISO 8107:1993(ver3) Nuclear power plants -

Maintainability - Terminology (保全性に係る用語) の3件の改定要否に関する検討の結果、①に関して、現在記載されている頻度論統計の部分に、ベイズ統計の記述を追記する改訂をすべきとの説明が行われ、了承された。

(7) 標準に記載する“リスク専門部会の活動”の文案について (RKTC6-7)

成宮幹事より、専門部会長の名前で標準に記載する“リスク専門部会の活動”の文案(資料RKTC6-7)について、各委員に15日までにコメントを出すよう依頼がされた。

(8) 標準委員会の活動状況 (RKTC6-参考2)

事務局より、RKTC6-参考2を用いて、標準委員会の活動状況について報告が行われた。

以上